



①発信する ②追究する ③粘り強く ④つながる ⑤思いや願いを実現しようとする ⑥課題解決する

頑張る気持ち・やる気を大切にしたい

校長 このみ 許斐 真也

年々短くなっていく春も終わりが近づき、早くも初夏を思わせる陽気が続いています。本校の敷地で繁る木々を見渡すと、「緑」と一文字で表現される色の中に、様々な緑があることを実感させられます。

期待や不安が入り混じる新年度が始まり早くもひと月が経ちました。新しい環境に慣れてきた子ども達が、明るい表情で学習したり、遊んだりしています。毎年この時期はクラスや学年、当番、係などでやる気に満ち溢れた表情で活動に取り組む姿を見かけることが多く、とても嬉しい気持ちになります。先日行われた「1年生を迎える会」では、テレビ放送で行いましたが、各学年で、1年生に喜んでもらおう、楽しく学校で過ごしてもらおうと工夫しながらプレゼントやメッセージを作成した様子が伝わってきました。代表の6年生はまさに最高学年として中心となり立派に計画や準備、当日の進行をやり遂げました。

各学年では、この1か月で新たな学年集団・学級集団としての土台を築いてきました。一人ひとりのめあてを考えたり、様々な役割（当番や係、実行委員など）を確認し合ったりしてきました。この活動は、今年度の学校生活を支える、大切なベースとなります。土台ができた後は子ども達が自分の目標達成に向けて学習に取り組んだり、役割を果たそうとしたりしながら充実した学校生活を過ごしてほしいと願っています。時折、めあての達成状況を振り返りながら、取組方法を見直したり、うまくいっていることに満足したりすることも大切なことです。こんな子どもたちの「やる気」を我々大人はどうやったら続けさせることができるでしょうか。これについては機会ある毎にお伝えしていますが、主に以下の3点です。

①「ほめること」ただし、子どもは、言葉だけでほめてもすぐに見抜いてしまいます。

「姿勢・頑張った点・プロセス（その取組の様子）・成果」を見落とさずに、よいタイミングで声をかけることが大切です。

②「さらなる期待を伝えること」次の目標を示すことにもなると思います。子どもに限らず、人はゴールが明確だと、取り組みやすいものです。その時には「ちょっと無理すればできそうなこと」を示すことがコツです。自分で目標を立てることも大切ですが、人間は周りの人に期待されると、それに応えようと、成果をあげる傾向があるそうです。

③「頑張ったことによる成長（よい変化）を伝えること」人は誰でも「よくなりたい」という気持ちがあります。行動だけでなく、その行為が「よりよい自分づくり」につながっていることがわかれば子どもはますます積極的に取り組むようになります。

沢山の様々な経験を積んできた大人には小さなことに思えても、子どもにとっては大発見だったり、ものすごく貴重な経験だったりすることがよくあります。お忙しい中とは思いますが、子どもの頑張りに対して温かい声をかけてくださるよう、お願いいたします。